

市場で注目株の野菜【水ナス】

～サラダ用の需要も増加～

ナスは歴史的にみると大変古い野菜の一つで、原産地はインドと言われています。歴史が古いこともあって、品種、産地がいろいろとあり、有名な品種だけを取り上げても100種類ぐらいにのぼるそうです。

水ナスは、奈良時代には栽培されていた記録があるので、1,200年前頃には食べられていたこととなります。

また、地方品種の一つでもあります。大阪府の泉佐野市を中心に栽培されていて、気候・風土や生活実態に対応して当地区に育成された品種と思われます。形はやや長めの卵型。皮が柔軟で極めて多汁質です。

耐乾性が強くないため、水を多くやらないと栽培ができないことから水ナスの名がついたようです。

他のナスに比べてその名の通り水分が多くて柔らかく、アクが少なく独自の甘味を持つため、生でも食べられます。

最近ではサラダの素材としても、使われるようになりました。また軽く塩もみし、ぬか漬けにすると、翌朝には鮮やかな紫色に漬け上がり、とてもおいしく食べられます。

近頃は、同様の品種が大阪府のみならず、各地でも栽培されるようになっていきます。



(金澤 誠 筆)